



RS MULTI SEALER

RS マルチシーラー

RS MULTI SEALER

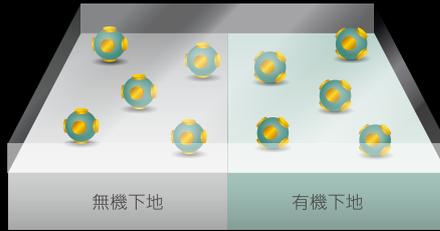
優れた付着性

RS マルチシーラー

有機下地には有機成分、無機下地には無機成分がそれぞれ付着する。



RSマルチシーラーの樹脂
※KPテクノロジーで有機樹脂と無機成分をコンポジット化



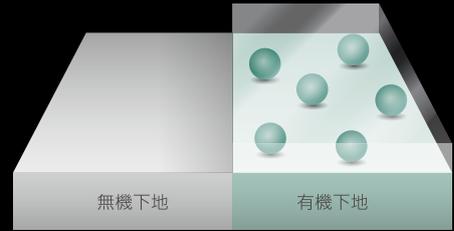
基材

従来のシーラー

有機下地にのみ付着、無機下地には付着しない。



一般シーラーの樹脂
(有機化合物のみで構成)



基材

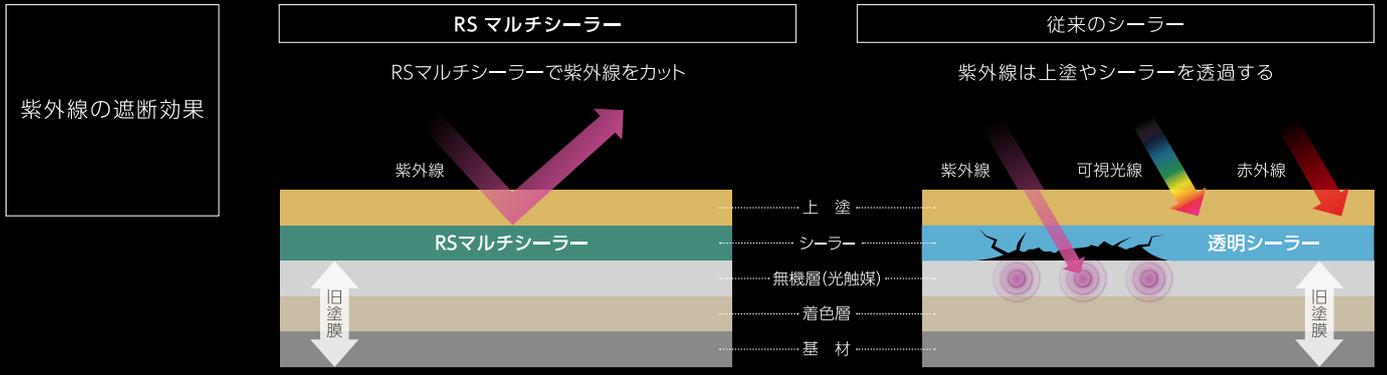
無機塗装窯業サイディングへの付着

	関西ペイント製品		他社A(白)	他社B(透明)
	RSマルチシーラー	2液エポキシシーラー		
20℃施工時				
評価	◎	◎	○	△
低温施工時				
評価	◎	×	×	—

難付着窯業サイディングへの付着

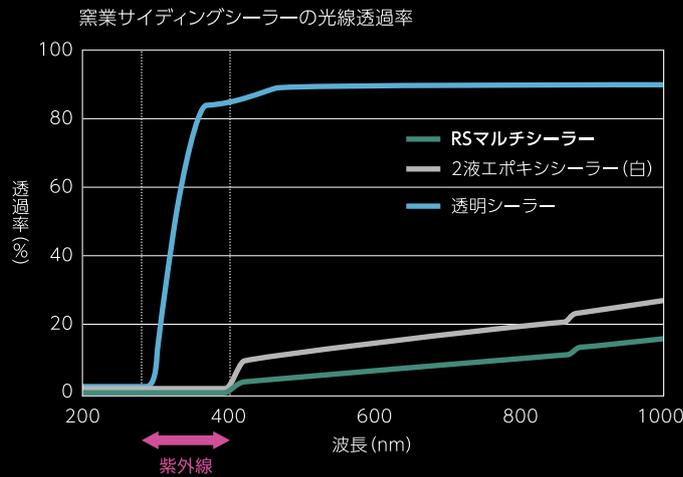
基材	難付着窯業サイディングの塗装品種				
	無機塗装	光触媒塗装I	光触媒塗装II	ふっ素塗装	アクリルシリコン塗装
RSマルチシーラー					
評価	◎	◎	◎	◎	○

紫外線をブロックし、優れた付着性を発揮。
光触媒サイディングなどに最適な下塗材です。



RSマルチシーラーは、紫外線を遮断するため光触媒塗装サイディングに対して、安定した付着性を維持することができます。

紫外線はエネルギーが強く、上塗やシーラー層を通過し光触媒を活性化します。そして光触媒効果によりシーラー層が分解・劣化し、徐々に付着が低下、塗膜の剥がれにいたる可能性があります。



RSマルチシーラーは、基材の表面まで紫外線透過を遮断します。また、着色シーラーにすることで塗り残しによるハガレへの影響も未然に防止することができます。



塗色: N-85近似

■ 主な適正素材

窯業系サイディング面	○	磁器タイル面*	○
モルタル	○	FRP板	○
コンクリート	○	塩ビ板	○
ALC	○	アクリルシリコン塗装面	○
PC板	○	ふっ素塗装面	○
フレキシブル板	○	光触媒塗装面	○
押出成形セメント板	○	無機塗装面	○
ホーロー面	○	*ラスタータイル面への施工はできません。	

■ 塗料性状

荷姿	15kgセット(主剤/硬化剤=12.5kg/2.5kg)
混合比	主剤/硬化剤=5:1
色	色:白(N-85近似)、透明(淡黒色透明)
仕上り感	平滑
劇物表示(品名・含有量)	—
労安法上の表示有害物	主剤:キシレン 硬化剤:なし
有機則/特化則	主剤:第3種有機溶剤等 硬化剤:第3種有機溶剤等
消防法による危険物区分	主剤:第4類 第2石油類(非水溶性) 硬化剤:第4類 第2石油類(非水溶性)

■ 塗装条件

塗装方法	ローラー	刷毛
希釈率	0%	0%
標準所要量 (kg/m ² /回)	0.12~0.18	0.12~0.18

*標準所要量は、個々の条件によって異なります。
**標準所要量は、塗装作業に必要な使用量の数値です。

■ 塗装間隔

項目	温度	
	5℃	23℃
標準塗装間隔	最短	16時間
	最長	7日
使用時限	12時間	7時間

本注意事項及びにご使用になる上塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認の上、塗装を行ってください。

- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の無い環境では、膨れ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。
- 長期間結露が継続し発生するような箇所への塗装は避けてください。塗膜剥離、膨れ等の異常が発生するおそれがあります。
- 可塑剤が多く含まれる部材(塩化銅板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装は避けてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 蓄熱しやすい素材(軽量モルタル、ALC、高断熱系窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を用いた「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタッコ、アクリルトップ等の場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜が膨れたり、剥離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないでください。(チヂミ、ニジミ、ちうみ、ワレ等発生する場合があります。)
- 水性バテ(合成樹脂エマルジョンバテ)は耐水性が劣るため、外部や浴室壁面等に使用すると、早期に塗膜剥離が生じる可能性がありますので使用しないでください。
- 強溶剤形塗料上塗り塗装は避けてください。
- 気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工は避けてください。
- 屋外において降雨、降雪、強風の恐れがある場合は塗装を避けてください。
- 塗装間隔は環境(温度、湿度、換気回数等)や膜厚によって変わります。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化や艶引けなどの異常が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の早くおきる多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 本品は乾燥過程で水(降雨、結露等)の影響を受けると白化することがあります。白化した場合は軽く表面を研磨するなどの処置をしてから次の工程に移ってください。
- 塗装仕様に記載の塗装間隔は、屋外で気温23℃の条件を想定しています。低温時や屋内等で十分な換気ができない場合は、塗装間隔が長くなることがありますのでご注意ください。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のもので、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅を生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。
- 適用可能な旧塗膜は下地との付着性に問題なく、活膜であることを条件としています。活膜下地(付着強度が0.7N/mm以上)
- 旧塗膜に光沢が残っており劣化していない場合には付着不良や塗り重ねチヂミが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒しを行ない、試し塗りによって確認のうえ塗装を実施してください。
- 吸い込みの著しい下地では表層が濡れ色になるまで十分に塗り込んでください。
- 吸い込みの大きい下地や素材の場合は、塗付量が多く乾燥が遅くなりますので塗装間隔を長くとってください。また、上塗までの塗装間隔が規定よりも短い場合、縮み、割れ、乾燥不良を起こすおそれがありますのでご注意ください。
- 被塗物の形状、膜厚や色目、塗り回数、希釈率の差などにより、実際の艶と若干異なって見える場合があります。また塗継ぎ箇所でも艶ムラを生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- 塗装間隔は厳守してください。塗装間隔を過ぎた場合は目荒しを行った後に塗装してください。また、塗装間隔が短い場合は、チヂミ、ワレ、ひわ等が発生することがありますのでご注意ください。
- 本品を塗装の際は、中途や上塗に塗り残しや透けがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を起こし層間で剥離が生じるおそれがあります。難付着素材の場合は、本品のタイプライマーを推奨します。
- 吸い込みの著しい被塗物などの塗り替え時はシーラーを塗装後にガムテープで基材との密着性を確認し、ハガレが生じる部分は塗膜を剥離し、その部分に再度本品を塗付してください。
- 無機系樹脂、光触媒処理、ふっ素樹脂、シリコン樹脂等特殊な樹脂で処理された窯業系サイディングボード面に塗装する場合は、下塗材として本品をご使用ください。なお、事前に試し塗りし付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒しを行ってください。
- 新設建材が押出成形セメント板やGRC板の場合には、下塗に本品をご使用ください。
- シーリング打設幅が広く、構造上大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので避けてください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、剥離、伸縮割れ、粘着などの不具合が発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して塗装適合性のあるノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また「マルタイルコンクリートプライマー-EPOI」[シープライマー]RS(プライマー)を下塗とすることで、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などにより剥離、伸縮割れが起こることがあります。
- シーリング面は、塗膜が汚染・はく離・収縮割れを起こすことがあるため、マスキングテープな

- どで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちし、可塑剤(油分)を含まないノンブリードシーリング材をご使用ください。
- ローラー塗装では同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが感じが異なって見えることがあります。
- 剛毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、仕上り肌や色相に多少差が生じます。
- 被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗を怠らに行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗替後の塗膜に膨れ、割れ、白化等の異常をきたす場合があります。水洗後にpH試験紙を用いて被塗面が中性になっていることを必ず確認してください。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜剥離の原因となったり、光沢不足や色ムラが発生するなど異常を生じるおそれがあります。
- 下地の劣化が著しく旧塗膜の密着不良が見られる場合は、脆弱塗膜を全て除去してください。
- 改修時の既存塗膜の剥離箇所は、予め既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修前に、漏水、ひび割れが認められる場合は、予め要因となっている箇所への防水処理、ひび割れ補修を行ってください。
- 新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下(ケツ科学社製CH-2型で測定した場合)、又は表面含水率5%以下(ケツ科学社製HI500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)まで十分に乾燥させてください。
- 水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥(含水率10%以下:ケツ科学社製CH-2型で測定した場合)させた後に塗装してください。
- コンクリートの目違い、ジャンカ、コールドジョイント等は、樹脂入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、埃、エフロレッセンス、レイタンスなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 塗装前の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、ハジキや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- 屋外での施工中、施工後間もなく、気象の急変により降雨が生じた場合はシート養生などを行い、塗装面に直接雨がからないように対策してください。
- 塗装ダストなどの飛散防止、塗装面以外への付着防止のため必ず養生を行ってください。
- タイル洗浄薬剤が塗装面に付着した場合、塗装面の変色や早期劣化を生じることがありますので塗装面の養生を行ってください。
- 防カビ・防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。
- 当社指定以外の材料を混合しないでください。仕上り性、付着性、耐久性など性能に支障をきたすおそれがあります。
- 低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経ってもゲル化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因になります。
- 主剤と硬化剤を規定の混合比率で配合した後、十分攪拌した後で塗装に使用してください。
- 主剤と硬化剤の混合比率が合っていない場合には、仕上がり性、耐熱軟化性、付着性、耐久性等の諸性能に影響しますので正確に計量配合してください。
- 主剤と硬化剤を混合した塗料は、可使用時間内に使用してください。可使用時間を過ぎたものを使用すると性能低下などの不具合を起こすおそれがありますので廃棄してください。
- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それ以降は同じ希釈率で塗装してください。
- 規定範囲を超えて希釈すると、ハジキ・光沢低下・色味変化・ダレ・隠蔽力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 塗料の希釈に塗料用シンナーAJ以外のシンナーを使用した場合、再溶解やチヂミ等の不具合を生じることがあります。
- 塗装用具の洗浄にはロッカーシンナーをご使用ください。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。
- 開栓後の塗料はできるだけ早く使い切ってください。また使用した塗料を元の塗料容器に戻さないでください。
- 現場での材料は、容器が密栓されていることを確認し、直射日光や凍結を避けた屋内の冷暗所で保管してください。
- 硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気口から流入しないよう養生を行ってください。
- 塗料が付着した布ウエス、紙、ローラーは引火、発火を防止するために浸漬するなどして安全対策を行ってください。
- 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- 製品と安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【予防策】

- 取り扱い作業中・乾燥中ともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気、スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
- 火災が発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。
- 裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱いは、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

【対応】

- 目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

- 皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
 - 吸い込んだ場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
 - 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
 - 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
 - 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。
- 【保管】
- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。
- 【廃棄】
- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)
- 【施工後の安全】
- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。
 - 例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、希物過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

